高岡町埋蔵文化財調査報告書第２集

高岡町遺跡詳細分布調査報告書

１９９２

宮崎県高岡町教育委員会

高岡町埋蔵文化財調査報告書第２集

高岡町遺跡詳細分布調査報告書

１９９２

宮崎県高岡町教育委員会

序　文

高岡町は、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな田園都市として発展を続けています。しかしながら、徐々に開発の波が押し寄せ、特にリゾート法の影響により、当町にも大規模開発が次々と計画されている現状にあります。そのため、文化財保護の立場から、今回、文化庁、県教育委員会の補助を仰ぎ、平成２年度と平成３年度の２カ年間を費し、高岡町内の遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果140カ所以上の遺跡の分布が確認され、町内を流れる大淀川流域の台地には、そのほとんどが遺跡として確認されています。

これらの遺跡は町の大切な遺産であり、何人たりともこれを破壊することは出来ません。これらの遺跡を後世に残していくためにはどうすればよいのか、今考える時期ではないでしょうか。ここに報告する資料が、文化財保護の理念のもと、今後の開発との協議に生かされることを祈願する次第であります。

この調査にあたり、ご協力頂いた県文化課、調査員の方々をはじめ、資料、情報をいただいた町民の皆様に対し、感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

平成４年３月

高岡町教育委員会

教育長　篠　原　和　民

例　　言

1．本書は高岡町教育委員会が平成２年度と３年度の２カ年間に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書です。

2．本調査は、埋蔵文化財に関する調査であり、内容は町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布地図の作成であります。

3．本書に掲載された埋蔵文化財は、すべて文化財保護法にいう「**周知の埋蔵文化財包蔵地**」です。

4．「**周知の埋蔵文化財包蔵地**」において、土木工事等を実施しようとする場合には、工事着手の２ケ月以前に文化庁長官に届け出ることが文化財保護法により義務づけされていますので、「**周知の埋蔵文化財包蔵地**」およびこれに隣接する地域において土木工事等を実施しようとする場合は、計画段階において**高岡町教育委員会**（東諸県郡高岡町大字内山2887番地・TEL 0985-82-1111）および**宮崎県教育委員会文化課**（宮崎市橘通東１丁目９番10号・TEL 0985-26-7251）に連絡し、文化財保護法による協議を行なって下さい。

　また、国および地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。

　なお、埋蔵文化財は、その性質上、未発見のまま地中に包蔵されている場合があり、工事等により当該文化財が発見された場合にも前記と同様、**高岡町教育委員会**および**宮崎県教育委員会文化課**に連絡して下さい。

5．本書および、埋蔵文化財に関するお問い合わせは、**高岡町教育委員会**および**宮崎県教育委員会文化課**へお願いいたします。

凡　　例

1．埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は、地図上に▭（赤色）で示し、そのうち城館址に関しては青色で示している。その他に、古墳は▬（赤色）で示し、社寺址は●（赤色）で示した。また、指定文化財は●（青色）で示している。

2．地図の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。

3．「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城館址等は一番号とし、古墳群については群に対し一番号を付した。

4．各遺跡を地区で分け、100番台は東高岡地区、200番台は高浜地区、300番台は穆佐地区、400番台は飯田内山地区、500番台は去川地区、600番台は浦之名地区とした。

5．遺跡名は、原則として小字名にしたが一部のものについては通称、俗称によった。

6．遺跡の所在地は、大字名、小字名で示した。地番については、高岡町教育委員会および宮崎県教育委員会文化課へ問い合わせられたい。

7．調査カードにある地図番号は1/2500の地図に対応する。また、保管している遺物の採取地に関しては、その地図の中の任意の番号により明記している。

8．本書の執筆はⅢ-6の特稿を千田嘉博氏（国立歴史民俗博物館助手）に依頼し、他は島田がおこなった。

目　　次

I　はじめに …… 7
1.　調査の目的 …… 7
2.　調査の方法 …… 7
3.　調査の組織 …… 8
II　調査の成果 …… 9
1.　歴史的概要 …… 9
2.　地名表 …… 11
a）東高岡地区（101～139） …… 11
b）高浜地区（201～212） …… 12
c）穆佐地区（301～333） …… 13
d）飯田内山地区（401～423） …… 14
e）去川地区（501～507） …… 16
f）浦之名地区（601～627） …… 16
III　主要遺跡概説 …… 19
1.　高岡古墳 …… 19
2.　蕨野遺跡 …… 19
3.　天ケ城址 …… 19
4.　学頭遺跡 …… 20
5.　穆佐城址 …… 20
6.　特稿　穆佐城址について …… 23

挿　図　目　次

第1図　穆佐城址周辺地形図 …… 21
第2図　穆佐城址縄張り図 …… 23

図　版　目　次

図版1　町内東部 …… 7
図版2　調査風景 …… 8
図版3　整理作業風景 …… 8
図版4　高岡古墳 …… 19
図版5　蕨野遺跡 …… 19
図版6　天ケ城址 …… 20
図版7　学頭遺跡 …… 20
図版8　穆佐城址全景 …… 21
図版9　穆佐城址掘切部分付近 …… 21
図版10　穆佐城址土橋部分付近 …… 21

I　はじめに

1.　調査の目的

2.　調査の方法

3.　調査の組織

Ⅰ はじめに

1. 調査の目的

高岡町は、宮崎市の西部に在りながら、近年まで大規模な開発が行なわれることはなかった。しかしながら、リゾート法の影響により、リゾートを目的とした大規模開発の計画が次々と出されてきたのである。そこで教育委員会は、文化財保護の立場から、高岡町内にある遺跡の分布状態を把握し、開発事業との調整に資するためにこの調査を実施した。

調査は2カ年計画で実施し、町内東側（平成2年度実施）と町内西側（平成3年度実施）というように分けた。

また、この調査でより詳細に遺跡の状態を把握したいところに関しては、詳細分布調査の一環として、一部分ではあるが試掘を実施している。

2. 調査の方法

調査は現地調査を主体に行なった。範囲は町内全域であるが、主に台地を中心に行ない平野部は散布の状態が明確でないため、極力雨天時の後か又は掘削後（耕作等を原因とする）の場所をみつけて精査した。現地では、1/2500の地図を使用した。この地図には任意に10㎝四方の方眼を組み、横方向をA～J、縦方向を1～7というように記号を付し、畑ごとに採取した遺物については、それぞれ場所がわかるようにその記号を使って明記した。整理にあたっては、調

図版1　町内東部

査カードを作成し、遺跡推定範囲内の地番がすべてわかるようにした。

3. 調査の組織

調査の組織は次の通りである。

調査主体　高岡町教育委員会

平成２年度

	篠原和民	教育長
	樋口律夫	教育課長
	岩崎健一	社会教育係長
庶務担当	佐川洋三	教育課主任主事
調査担当	島田正浩	教育課主事
調査指導	千田嘉博	国立歴史民俗博物館助手
	北郷泰道	県文化課主任主事

平成３年度

	篠原和民	教育長
	樋口律夫	教育課長
	錦田四郎	教育課長（７月～）
	岩崎健一	教育課長補佐（７月～）
	岩崎健一	社会教育係長
庶務担当	島田正浩	教育課主事
調査担当	島田正浩	教育課主事
調査指導	北郷泰道	県文化課主査

図版２　調査風景

図版３　整理作業風景

II 調査の成果

1. 歴史的概要

2. 地名表

a）東高岡地区（101～139）

b）高浜地区（201～212）

c）穆佐地区（301～333）

d）飯田内山地区（401～423）

e）去川地区（501～507）

f）浦之名地区（601～627）

II　調査の成果

1.　歴史的概要

高岡町は、面積の70%以上が山林であり、その中央部を大淀川が東流している。そのため西部の山間部を中心に小規模な谷がいくつか形成され、大淀川の両岸は河岸段丘による小台地が多く点在している。そういう地形の中で、調査成果をもとに遺跡の分布をみると、そのほとんどが台地に存在していることが明らかとなった。しかも、時代が幅広く、近世に至るまでの遺物の散布がみられた。特に東高岡地区と浦之名地区一里山を中心とした台地において密度が高く、台地全体で遺物が採取されている。平野部の遺跡の把握は困難ではあったが、大淀川の氾濫源において部分的に存在している。高岡町は、以前から「みかん」の栽培が盛んに行なわれており、それによる包含層等の撹乱が目立ち、縄文前期以降の遺跡の保存状態は必ずしも良好とはいえない。また、中世から近世にかけての山城については、文字による資料だけでは約18カ所を数え、地形においても大規模な開発がなかったせいか、保存状態は全体的に良好である。それ以外には、2～3カ所の遺跡において、布目圧痕土器片が採取されており、山間部における遺跡でのその遺物の取り扱いが注目される。

さて、次に歴史の流れを追って具体的に述べたいところであるが、町内での本格的な発掘調査はほんの数年前から始まったばかりであり、頼るところは表採による資料がほとんどである。

高岡町内の遺跡で一番古い時期は、旧石器時代までさか上ることができる。以前、浦之名地区久木野遺跡周辺（詳細は不明）で剝片尖頭器が１点採取されており、この時期のものと思われる。今回の調査では採取されておらず、発掘調査例もまだ無い。

縄文時代に入ると、遺跡の数は増加する。発掘調査例では、そのほとんどが縄文時代早期であり、表採資料によれば縄文後期がそれに加わる。縄文時代の遺跡として早くから周知されていたものとしては、花見貝塚（城ケ峰貝塚）がある。しかしながら発見された時の記録があるのみで詳細な時期は不明である。縄文時代早期は、橋山第１遺跡・天ケ城址・宗栄司遺跡等があげられ、集石遺構に伴い押型文土器が出土している。また遺跡によっては、２次アカホヤ火山灰土層より縄文時代前期の土器（轟式）が出土している。縄文時代後期では穆佐地区の山子遺跡で貝殻文土器が採取されている。それ以外でも、穆佐地区や浦之名地区一里山では石鏃や磨製石斧等が以前から表採資料としてあげられており、今回の調査では新たに浦之名地区瀬越周辺や去川地区の面早流周辺の台地でも遺物が採取されている。

弥生時代の遺跡は縄文時代に較べて少なく、弥生時代（Ⅰ～Ⅲ期）に関しては、明確な遺跡は現在のところ存在していない。周知されている遺跡は、最近発掘調査をおこなった学頭遺跡と昭和60年に調査された丹後堀遺跡ぐらいである。東高岡地区の丹後堀遺跡は弥生時代中期末

の遺跡で台地に立地し、弥生時代後期である学頭宮跡は反対に平野部の微高地状の地形に立地している。今回の調査でも、浦之名地区や高浜地区で若干の遺物の採取ができただけである。

古墳時代は、東高岡地区花見の台地と浦之名地区一里山周辺の台地を中心に展開する。古墳は、東高岡地区で3基が県指定古墳とされている。いずれも後期で、そのうちの一基は城ケ峰というところにあり、墳丘を持たず地下式横穴墓ではないかと思われる。地下式横穴墓は、高岡周辺（日向）では一般的な墓制のひとつであり、城ケ峰の他に、久木野において群を成して存在しているものと思われる。すでに久木野地下式横穴墓群として3基を発掘調査している。また八児遺跡では住居址が検出されている。今回の調査でも、丹後堀・二ツ塚・城ケ峰・久木野・浦之名地区水流口・飯田内山地区境原の各遺跡でかなり多く採取されている。

古代になると、東高岡地区で平安時代中期～末期の遺物が採取されている。「和名抄」には穆佐郷という記述があり、高岡のほとんどはこの穆佐郷に属していたようである。また、増長寺（天台宗系）が置かれた記述が「高岡名勝誌」にあり、久津良遺跡内に存在した。

古代において島津氏とのかかわりが生まれるが、中・近世においてはよりいっそう深くなる。まず、「建久8年日向国図田帳写」に穆佐院がみられ、そこを中心に中世は展開する。特に南北朝期はそれが顕著で、畠山氏、今川氏、そして日向国守護職としての島津氏など穆佐をとりまく状勢は日向の中核をなすものである。その後、穆佐城は、内山城・飯田城と共に伊東48城のひとつに数えられ、伊東氏の支配が続く。1578年耳川合戦で大友氏を破った後は島津氏の支配するところとなる。天正年間までには穆佐城などを中心にその周辺に小規模な城が存在する形となり、支配体制の一端をみることが出来る。江戸時代に入り、島津氏は、約750人の武士を高岡に移住させ麓を形成させた。これは支配体制強化の為、武士が土着化するのを防ぎあわせて東目としての軍事的役割を理由としている。中・近世の時期になると、町内すべてにおいて遺物が採取される。たとえば、天ケ城址の麓である久津良遺跡や穆佐城址に対する麓遺跡、そして悟正寺跡と門前遺跡など必然的に生まれた遺跡も存在する。

2. 地名表

a）東高岡地区（101～139）

東高岡地区は町東部の大淀川の北側に位置する。河岸段丘による台地を中心に遺跡が存在する。この地区では、ほとんどの台地状の地形のところには遺物の散布がみられる。

この地区の特徴は縄文時代と古墳時代にある。まず縄文時代では、早期は橋山第１遺跡、前期では飛渡遺跡・荒平第２遺跡、後期では山頭遺跡がある。橋山第１遺跡は集石遺構を伴うもので石錐が多く出土した。それ以外には花見貝塚が存在するが、これは詳細な時期は不明である。城ケ峰の台地を中心として大淀川沿いに広く部分的に貝塚状に存在していると思われるが、今回の調査でも確実な場所はわかっていない。古墳は県指定古墳として高岡町古墳が３基在る。１・２号墳（円墳）周辺では祭祀に関係する遺物が出土している。３号墳は墳丘がなく、周辺で地盤が落ちたという話があるため地下式横穴墓群の可能性もある。その他に五ツ塚古墳1～4号があり小さな墳丘をもつ。

これらの時代以外では土師器の焼成土壙が確認された蕨野遺跡（古代）や土師器皿が採取された栗野遺跡（中・近）がある。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
101	栗野遺跡	大字高浜字三月田	散布地	中		
102	上栗野遺跡	大字花見字栗野	散布地	中・近		
103	西ノ原遺跡	大字花見字西ノ原	散布地	縄・近		
104	中山遺跡	大字花見字中山	散布地	縄～近		
105	飛渡遺跡	大字花見字飛渡	散布地	縄・中		
106	紙屋造遺跡	大字花見字紙屋造	散布地	縄		
107	二反田遺跡	大字花見字仁反田	散布地	古代		
108	荒平第１遺跡	大字花見字荒平	集落址	中		
109	荒平第２遺跡	大字花見字荒平	散布地	縄		
110	野中第１遺跡	大字花見字野中	集落址	縄		
111	五ツ塚1-4号墳	大字花見字長迫	古　墳	古	19-44	
112	野中第２遺跡	大字花見字野中	集落址	縄		
113	小谷遺跡	大字花見字小谷	散布地	古・中		
114	花見新田遺跡	大字花見字新田	散布地	中・近		
115	下三蔵遺跡	大字花見字下三蔵	散布地	中・近		
116	高尾遺跡	大字花見字高尾	散布地	中		
117	三蔵原遺跡	大字花見字上三蔵	散布地	古・中・近		
118	蕨野遺跡	大字花見字蕨野	散布地	縄・古代・近		
119-1	高岡町１号墳	大字花見字二ツ塚	古　墳	古		
119-2	高岡町２号墳	大字花見字二ツ塚	古　墳	古		

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
120	長迫遺跡	大字花見字長迫	散布地	中・近		
121	丹後堀遺跡	大字花見字大原	散布地	縄～近		
122	山頭遺跡	大字花見字山頭	散布地	縄・弥・近	19-47	
123	山頭西遺跡	大字花見字二ツ塚	散布地	縄		
124	池ノ内遺跡	大字花見字池ノ内	散布地	中・近		
125	橋山第１遺跡	大字花見字池ノ内	散布地	縄		
126	橋山第２遺跡	大字花見字橋山	散布地	縄		
127	橋山第３遺跡	大字花見字橋山	散布地	弥・古・近		
128	笹川遺跡	大字花見字笹川	散布地	縄・近		
129	後田遺跡	大字花見字後田	散布地	中・近		
130	矢越遺跡	大字花見字矢越	散布地	中・近		
131	真道遺跡	大字花見字真道	散布地	縄		
132	城ケ峰遺跡	大字花見字城連	散布地	縄～近	19-57	
133	花見貝塚	大字花見字東城連字城ケ峰	散布地	縄	19-53	
134	野間遺跡	大字花見字仁反田	散布地	古代～近		
135	上三生江遺跡	大字花見字三生江	散布地	中		
136	三生江遺跡	大字花見字三生江	散布地	弥～古代		
137	桑木遺跡	大字花見字桑木	散布地	古		
138-1	高岡町３号墳	大字花見字下ノ坊	古　墳	古		
138-2	高岡町４号墳	大字花見字東城連	古　墳	古		消滅
139	花見下原遺跡	大字花見字下原	散布地	縄～近		

b）高浜地区（201～212）

高浜地区は、町中央部にあり、大淀川の南側に位置する。大淀川に沿った河岸段丘の台地とその下の平野部の微高地状のところに遺跡の存在が確認されている。平野部の遺跡は香積寺跡と高浜遺跡がある。高浜遺跡は、以前石斧が採取されたと言われているが、今回の調査では土師器皿を中心とする中～近世の遺物ばかりであった。台地でも中～近世の遺物はまんべんなく広い範囲で採取されている。それ以外の時代を示す遺跡としては、鍋山遺跡で多くの縄文時代後期の遺物が採取されている。また、吹上遺跡では縄文・弥生時代の遺物が若干採取されている。榎原遺跡や下原遺跡では布目圧痕をもつ土器が採取され、古代以降の遺跡として位置付けている。この台地から西側の大淀川沿いにある小台地に楠見城址が存在する。一部破壊を受けているが、南側は土塁等が残っている。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
201	香積寺跡	大字高浜字梅元	寺院址	近		
202	高浜遺跡	大字高浜字川原	散布地	中・近		
203	中ノ丸遺跡	大字高浜字中ノ丸	散布地	中・近		
204	茶薗堀遺跡	大字高浜字瀬ノ上・字茶薗堀	散布地	中・近		
205	吹上遺跡	大字高浜字吹上	散布地	縄・弥・中・近		
206	池ノ上遺跡	大字高浜字黒谷	散布地	縄・中・近		
207	高野原遺跡	大字高浜字高野原	散布地	縄・弥		
208	鍋山遺跡	大字高浜字榎原・字鍋山	散布地	縄・中・近		
209	榎原遺跡	大字高浜字榎原	散布地	縄・古代・中・近		
210	下原遺跡	大字高浜字下原	散布地	古代・中		
211	小畑遺跡	大字高浜字小畑	散布地	中・近		
212	楢見城址	大字高浜字城ノ山	城　館	縄・近		

C）穆佐地区（301～333）

穆佐地区は、町東部大淀川南側に位置する。小山田方面と倉永方面で谷を形成し、そこを中心に遺跡が存在する。

小山田方面では、縄文時代早期に平成４年に発掘調査を実施した宗栄司遺跡、縄文時代後期の山子遺跡・中野原第２遺跡がある。いずれも小台地又は台地の先端部に位置する。古代では喜呂女木遺跡と宗栄司遺跡があり、高台をもつ土師器椀が採取されている。中世の遺跡としては、瓜田遺跡・中房遺跡・穆佐城址がある。穆佐城址は中世から近世にかけての山城であり、穆佐小学校の西側から穆園広場を含む10町以上の面積をもつ大規模な城である。近世では、穆佐城址の南側に立地する麓遺跡や悟性寺跡・その南側の微高地状のところに立地する門前遺跡がある。倉永方面では縄文時代～近世にかけて存在する遺跡として学頭遺跡・宮水流遺跡・八児遺跡がある。現在調査中であるが弥生時代後期・古墳時代初頭・中世の遺跡・遺物が検出されている。また、表採資料をみても、弥生時代後期の壺・須恵器・青磁（龍泉窯系）碗、そして宮水流全域に近世の陶磁器類がある。宮水流は近世においては野町を形成していたところである。その他の遺物では、学頭遺跡の横を流れる江川の東側に古墳時代の岩崎遺跡が立地する。その遺跡の北側には、宮崎市の生目村古墳（県指定）がある。学頭遺跡の南側に平野部が広がるが、圃場整備がおこなわれており遺跡は確認していない。大迫遺跡と川子遺跡が残るが、それもほとんどは破壊されている。その平野部南側の舌状台地に的野遺跡があり、ここでは布目圧痕土器が採取される。山間部に入ると縄文時代の遺跡が多くなり、柞木橋遺跡・大谷遺跡・八久保遺跡などから採取されている。内ノ八重の台地からは中世の遺物のみ採取されているが、隣接して立地する田野町の掘口Ａ遺跡は縄文時代の遺跡であり、縄文時代の遺跡が存在する可能性がある。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
301	学頭遺跡	大字下倉永字学頭	集　落	縄～中	19-52	
302	岩崎遺跡	大字下倉永字東田	散布地	古		
303	的野遺跡	大字上倉永字的野	散布地	古代・近		
304	本崎遺跡	大字上倉永字星崎	散布地	中・近		
305	柞木橋遺跡	大字上倉永字八久保	散布地	縄	19-106	
306	八久保遺跡	大字上倉永字芳原	散布地	縄		
307	内ノ八重第1遺跡	大字上倉永字内ノ八重	散布地	縄・中・近		
308	内ノ八重第2遺跡	大字上倉永字内ノ八重	散布地	中		
309	漆原遺跡	大字上倉永字内ノ八重	散布地	中		
310	大谷遺跡	大字小山田字大谷	散布地	縄・弥		
311	穆佐城址	大字小山田字麓・字上新城・字新山	城　館	中・近	19-49	
312	川子遺跡	大字上倉永字川子	散布地	中		
313	瓜田遺跡	大字小山田字新山	散布地	中		
314	宗栄司遺跡	大字小山田字宗栄司	散布地	縄・中・近		
315	永迫第1遺跡	大字小山田字永迫	散布地	中・近		
316	永迫第2遺跡	大字小山田字永迫	散布地	縄・中・近		
317	中野原第1遺跡	大字小山田字中野原	散布地	中・近		
318	中野原第2遺跡	大字小山田字中野原	散布地	縄・中		
319	喜呂女木遺跡	大字小山田字喜呂女木	散布地	古代		
320	前原遺跡	大字小山田字井ノ尻	散布地	中・近		
321	花立原遺跡	大字小山田字花立原	散布地	縄・古代・近		
322	中房遺跡	大字小山田字中房	散布地	中		
323	山子遺跡	大字小山田字山子	散布地	縄・中	19-50	
324	悟性寺跡	大字小山田字渡内	寺院址	中・近		
325	門前遺跡	大字小山田字赤池	散布地	中・近		
326	麓遺跡	大字小山田字麓	散布地	中・近		
327	大迫遺跡	大字下倉永字大迫	散布地	中		
328	糀ケ迫遺跡	大字上倉永字糀ケ迫	散布地	中・近		
329	永田遺跡	大字小山田字中野原	散布地	中・近		
330	天正寺跡	大字下倉永字天正司	寺院址	中・近		
331	八児遺跡	大字下倉永字八児	散布地	古～近		
332	宮水流遺跡	大字下倉永字宮水流	散布地	縄～近		
333	八代藩主 島津久豊の墓	大字小山田字渡内	史　跡	中		

d）飯田内山地区（401～423）

この地区は町の中央部大淀川の北側にあり、天ケ城を中心に内山と飯田にそれぞれ谷が形成され北側へ延びている。この地区は広い台地はなく小規模なものが点在し、それぞれに遺物の散布がみられる。内山方面では、境原遺跡・木場下遺跡・弓袋遺跡・下木場遺跡が縄文時代後期の遺跡とされ、いずれも台地に位置する。貝殻文をもつ土器が採取されている。中近世では、田中遺跡・南城寺遺跡が台地に立地し、内山新田遺跡・餅田遺跡は平野部に立地する。またこの地区には山城が多く、椿城址・池ノ尾城址・尾谷城址・平ケ城址・天ケ城址、そして飯田方面の飯田城址がある。内山城址と飯田城址は中世の伊東48城に入るものである。これらの山城は天ケ城を除いて、そのほとんどが保存状態良好である。天ケ城の麓の久津良遺跡は近世の城下町の性格をもつ。飯田方面にある朝羽田遺跡・角ノ園遺跡・山口遺跡など、同時期の遺跡が近辺に立地している。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
401	相原遺跡	大字飯田字横尾	散布地	中・近		
402	飯田城址	大字飯田字天神ケ迫	城　館	中・近		
403	山口遺跡	大字飯田字山口	散布地	中・近		
404	朝羽田遺跡	大字飯田字朝羽田	散布地	中・近		
405	角ノ園遺跡	大字飯田字角ノ園	散布地	中・近		
406	久津良遺跡	大字飯田字前田	散布地	中・近		
407	天ケ城址	大字内山字大迫	城　館	中・近	19-41	
408	尾谷城址	大字内山字高手原	城　館	近		
409	弓袋遺跡	大字内山字弓袋	散布地	縄・近		
410	下ノ木場遺跡	大字内山字下ノ重	散布地	縄・弥・近	19-42	
411	餅田遺跡	大字飯田字餅田	散布地	近		
412	内山新田遺跡	大字内山字新田	散布地	近		
413	池ノ尾城址	大字内山字池ノ尾	城　館	中・近		
414	原田遺跡	大字五町字南原田	散布地	中		
415	椿城址	大字内山字椿・字尾払・字城	城　館	中・近		
416	南城寺遺跡	大字内山字南城寺	散布地	近		
417	田中遺跡	大字五町字田中・字南原	散布地	近		
418	境原遺跡	大字五町字境原・字向屋敷	散布地	縄・古・中		
419	向屋敷遺跡	大字五町字向屋敷	散布地	縄・中		
420	木場下遺跡	大字五町字木場下	散布地	縄		
421	平ケ城址	大字五町字原ノ園	城　館	近		
422	龍福寺跡	大字内山字顕本瀬	寺院址	近		
423	龍福寺仁王像	大字内山字顕本瀬	史　跡	近		

e）去川地区（501～507）

去川地区は町西部の大淀川南側をいう。山間部でもあり、遺跡の数は少ない。柚木崎遺跡で縄文式土器、新保遺跡で布目圧痕土器の表採資料がある他は、ほとんど近世を中心とする。大淀川に面して、長崎城址・柚木崎城址があり、保存状態は良好である。去川関所跡は県指定史跡であり、島津氏の東目における防衛上の施設である。現在、国道10号線が通るが、その周辺は関所守の二見家屋敷等があり、当時の面影を残している。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
501	柚木崎遺跡	大字五町字宮ノ谷	散布地	縄・中		
502	柚木崎城址	大字五町字宮ノ谷	城　館	近		
503	長崎城址	大字五町字長崎	城　館	近		
504	新保遺跡	大字内山字西山	散布地	古代～中		
505	去川関所跡	大字内山字前田	その他	近		
506	和石遺跡	大字内山字入込・字徳右エ門釜	散布地			
507	去川関所御定番二見家墓石群	大字内山字前田	史　跡	近		

f）浦之名地区（601～627）

この地区は町西部の大淀川北側に位置する。この地区も台地を形成するところは遺跡が在るといってよく、特に一里山周辺の台地はすべてに遺跡が立地している。一里山周辺は久木野遺跡や水流口遺跡などのように古墳時代を中心とし、久木野地下式横穴墓群を墓地としてとりいれた集落が存在していたものと思われる。浦之名川上流域は、今回の調査で初めて周知の遺跡として認められたところであり、奥畑遺跡・赤木遺跡・平木場遺跡・長野原第１遺跡と縄文時代の遺跡が並ぶ。浦之名川中流域から下流域にかけての小台地にも、川口遺跡・面早流遺跡（縄文時代）、小川路遺跡（古代）、本永寺原遺跡（中世～近世）が存在する。本永寺原遺跡は名称のとおり、日蓮宗本永寺が在ったところである。山城も、古城・今城と小規模な城が存在している。また、石敷遺跡・土橋遺跡は、開発による事前の試掘調査で明らかとなったところであるが、前者は山頂部に立地し、後者はやせた舌状台地に立地している。通常、遺跡が立地する可能性が極力薄いところで発見されており、いずれも、アカホヤ火山灰層の下から焼石が検出されている。川原田周辺になると平野部で宮ノ下遺跡・山下遺跡が在り、古代から中世にかけての遺物が採取されている。その北側の台地には伊勢ノ原遺跡が在り縄文時代後期となっている。

遺跡番号	名　称	所　在　地	種別	時　代	旧番号	備　考
601	宮ノ下遺跡	大字浦之名字上水流	散布地	古代・中		
602	山下遺跡	大字浦之名字浜鈴	散布地	中		
603	伊勢ノ原遺跡	大字浦之名字中ノ段	散布地	縄・近	19-43	
604	橋上遺跡	大字浦之名字橋上	散布地	中		
605	石敷遺跡	大字浦之名字赤穂突	散布地	縄		
606	土橋遺跡	大字浦之名字土橋	散布地	縄		
607	川口遺跡	大字浦之名字高野原	散布地	縄・中	19-40	
608	面早流遺跡	大字浦之名字面早流	散布地	縄		
609	川谷遺跡	大字浦之名字川谷	散布地	縄・中・近		
610	今城址	大字浦之名字法ケ代字山下	城　館	近		
611	小川路遺跡	大字浦之名字小川路	散布地	縄・古代・中		
612	本永寺原遺跡	大字浦之名字坂ノ下	社寺址	中・近		
613	茶屋原遺跡	大字浦之名字茶屋原	散布地	古		
614	久木野遺跡	大字浦之名字久木野	散布地	縄・弥・古		
615	久木野地下式横穴墓群	大字浦之名字久木野・字茶屋原	横穴墓	古		
616	小田元遺跡	大字浦之名字小田元・字久木野	散布地	古	38-42	
617	一里山第1遺跡	大字浦之名字小田元	散布地	縄・古		
618	一里山第2遺跡	大字浦之名字小田元	散布地	古		
619	一里山第3遺跡	大字浦之名字小田元	散布地	縄・弥		
620	一里山第4遺跡	大字浦之名字小田元	散布地	縄・中		
621	水流口遺跡	大字浦之名字小田元	散布地	縄・古		
622	赤木遺跡	大字紙屋字赤木	散布地	縄		
623	奥畑遺跡	大字紙屋字奥畑	散布地	縄		
624	長野原第1遺跡	大字浦之名字平木場・字長野原	散布地	縄・中・近		
625	長野原第2遺跡	大字浦之名字長野原	散布地	弥・古		
626	平木場遺跡	大字浦之名字平木場	散布地	縄		
627	宮田原遺跡	大字浦之名字古宮田	散布地	近		古城址？

III　主要遺跡概説

1.　高岡古墳

2.　蕨野遺跡

3.　天ケ城址

4.　学頭遺跡

5.　穆佐城址

6.　特稿

　　穆佐城址について

Ⅲ　主要遺跡概説

1.　高岡古墳１～３号（119・138）

東高岡地区の字二ツ塚に２基（通称二ツ塚古墳）と字下ノ坊に１基（通称城ケ峰古墳）が県指定古墳として存在する。城ケ峰にもう一基円墳が在ったが消滅している。二ツ塚古墳１号墳（東側）は、円墳で径約5.0ｍ、墳丘の高さ約1.5ｍである。２号墳（西側）も円墳で径約6.5ｍ～10ｍ（一部消平を受けている可能性有り）、墳丘の高さ約2.3ｍである。昭和59年に墳丘付近で、二重口縁壺と短頸丸底壺（古墳時代中期）と鉄器（鉄斧など）が耕作中に発見されている。城ケ峰古墳（高岡古墳３号）は、墳丘が無く、周辺に地下式横穴墓が群として存在する可能性が高く、３号墳もその中のひとつかもしれない。いずれも時期は古墳時代後期とされているが、発掘調査はおこなわれていない。

図版４　高岡古墳

2.　蕨野遺跡（118）

東高岡地区の字蕨野に存在する。平成２年に民間の土砂採取の工事中に発見され、発掘調査を実施している。遺跡は、北側にやや張り出した感じの台地に立地している。もと、みかん園で、アカホヤ火山灰層上面で遺構を検出したが、かなりの撹乱を受けていた。遺構は、土壙が約８基、焼成土壙10基を検出している。焼成土壙は3～5基を１グループとして２グループを確認し、平面長方形又は長楕円形をなす。残存状態はきわめて悪く、平面プランとしておさえることの出来ないものもある。遺物に関しては、土師器の杯・高台付きの椀・蓋を中心に出土し、他に土師器甕・須恵器甕もみられる。時期は10世紀前後と思われるが、現在整理作業中である。遺跡は、西側へ広がっているものと推測され、隣の台地でも同時期の土師器椀が検出されている。

図版５　蕨野遺跡

3.　天ケ城址（413）

天ケ城址は高岡町役場のすぐ北側の台地にあり、高岡城を前身とし、慶長５年に天ケ城とされた。島津氏が築城した最後の山城とも言われているが、公園整備にともない、天ケ城・三の

丸・本丸と言われているところ以外は、破壊されている。平成３年に本丸部分の発掘調査を行ない、第３次調査を終了している。城郭に関係する遺構はＬ字状に溝が存在するだけで、建物等は検出されていない。なお、破壊前の地形図によれば、本丸と言われている部分は城外であるという見解もあり調査結果と一致するところである。アカホヤ火山灰層の下に淡黄褐色土層、その下に黒褐色土層があり、黒褐色土層上面を中心として集石遺構が検出された。遺物では、押型文土器をはじめ、石鏃・石槍・剥片（黒曜石）等が出土している。また、黒褐色土層下の面から、土坑が多く検出され、中には「おとし穴」状のものもあった。本丸部分以外では、東端に位置する天ケ城と言われているところで、平成元年に試掘調査を実施した。柱穴が確認され、土師器皿等の出土もみられた。

図版６　天ケ城址

4.　学頭遺跡（301）

穆佐地区の字学頭を中心とする縄文時代から中世にかけての遺跡である。とりわけ、中心となる時期は弥生時代後期であり、平成元年から継続的に調査が行なわれている。遺跡は、溝や土壙が検出され、甕等が出土しており、その検出面を古代～中世の包含層が覆っている。微高地状の地形に立地するが、大淀川方面へ一段下がった低地でも縄文時代の遺物が確認されている。この遺跡は北東側へ拡がりをみせるものと思われ、時期的にも少し新しく須恵器高杯が採取されている。それ以外に打製石斧や旧石器時代の遺物も以前採取されており、今後の調査に期待されるところである。

図版７　学頭遺跡

5.　穆佐城址（311）

穆佐城址は、中世から近世初頭にかけての山城である。中世は穆佐院として中心地だった（小学校周辺推定）ところで、城としての機能を持たせ始めたのは（現在の場所）、畠山義顕の頃からと思われ、戦国時代末期には現在のような形状の山城になったと思われる。その間、中世の日向は穆佐城を中心に展開したと言ってもよく、島津元久の穆佐城入部やその後の伊東氏支配などと変遷を辿っている。

高岡町では、穆佐城址の都市公園化が計画されており、早急に城域の確認と遺構等の状況を

第１図　穆佐城址周辺地形図

的確に把握する必要性が生じた。そのため、平成２年に穆佐城址縄張り図を作成し、同時に平成３年にかけて一部ではあるが試掘調査を行なった。縄張り図作成は、千田嘉博氏(国立歴史民俗博物館・考古研究部助手）に依頼し、それ以外の山城についても城域を把握するため調査して頂いた。試掘調査についてはＡ地区とＢ地区（以下第２図参照）を中心に計10本のトレンチを掘削したので、状況を簡単に明記する。

第１トレンチ（第21地点）は幅2.0ｍでＴ字状に設け掘削した。Pit 状の遺構が検出され、遺物では包含層から染付・青磁（蓮弁をもつ）・土師器皿・鉄滓が出土した。第２トレンチから第５トレンチは同じ第10地点に平行して設け掘削した。第２トレンチ東側で段を成して落ち込みがみられた。また、すべてのトレンチで Pit 状の遺構が確認されており、青磁・土師器皿・刀子が出土している。第６トレンチは、第２・３地点と第４地点を分ける堀切りの部分に設け、堀の状況を確認することを目的とした。その結果、第４地点の方向に一段低くなっており、床面は平坦であった。深いところで40 cm～60 cm は埋まっていた。第７トレンチは第２地点の状況把握、第９・10トレンチは第１地点の状況把握、第８トレンチは、土橋から第１地点の曲輪の入口部分に設け門等の確認を試みたが何も検出されなかった。遺物は、それぞれのトレンチにおいて微量ではあるが土師器皿・白磁が出土している。

図版８　穆佐城址全景

図版９　穆佐城址堀切部分

図版10　穆佐城址土橋部分

6. 特稿　穆佐城址について

国立歴史民俗博物館考古研究部助手
千田嘉博

穆佐城は標高約60 m、比高約40 m の丘陵上に立地する中世の城郭である。この地は古代以来の穆佐院の地として歴史をもつが、現在見られる穆佐城の姿が整えられたのは、戦国末期だと考えられる。

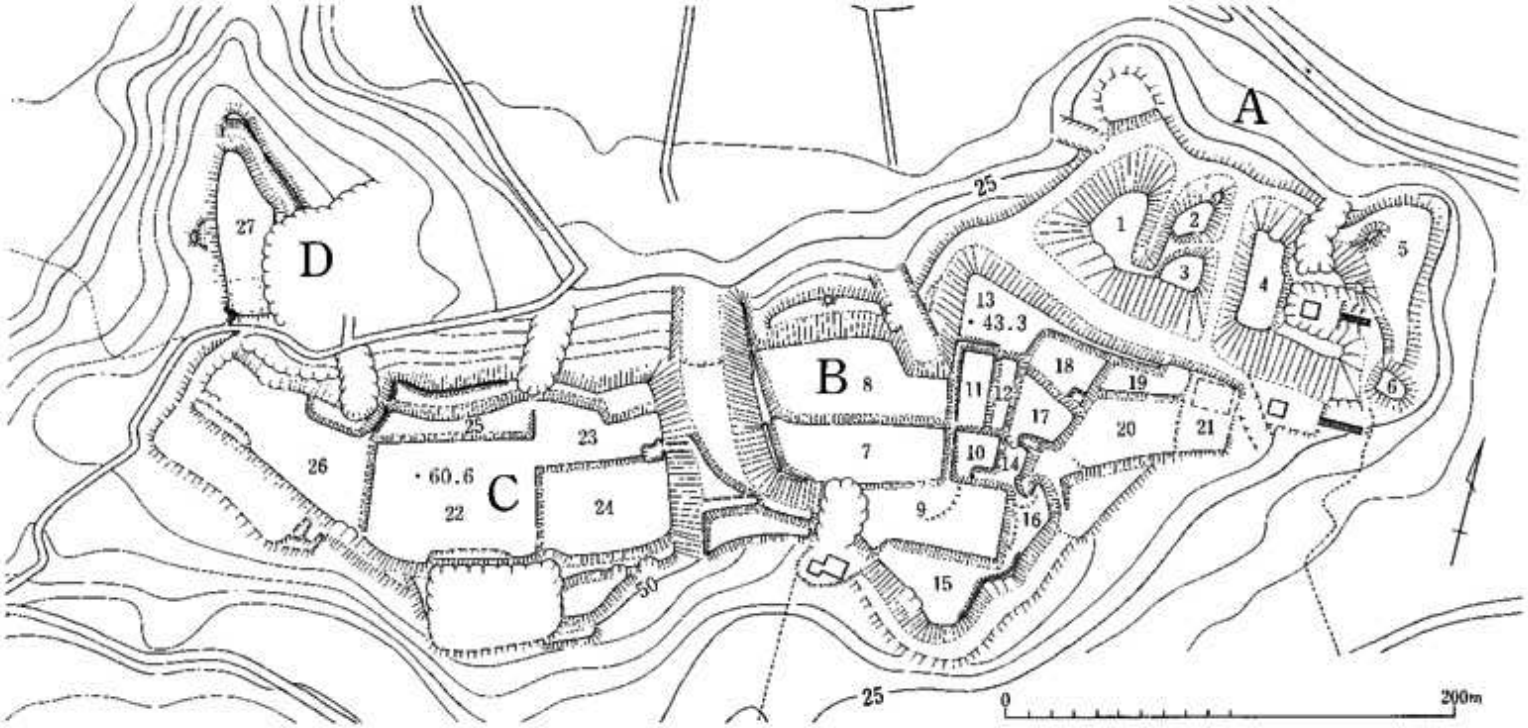
城跡は大きくA～Dの４つの地区に分かれ、全長は600 m に及ぶ。A地区は穆佐小学校の裏山にあたる。主に６つの曲輪群から構成される。１つ１つの曲輪の面積は狭く、複雑に堀を入れる。これより、城内でも特に戦闘に係わる要害機能を発揮した地区だと考えられる。隣接するB地区とは、上端幅約35 m を測る堀切りAで分離する。

B地区は城郭の中心部を占める。現在、杉林になっている。主に15の曲輪群から構成される。B地区の曲輪７は、城内最高所に位置し、西方C地区に対し、厳重な土塁を備える。曲輪群中に占める優位性は明らかで、曲輪８と共に穆佐城の主郭であったと評価される。また曲輪20は「坪之城」と通称され、応永10年（1403）に島津忠国〔島津氏第９代〕が生まれたところとされる。こうしたことから、B地区は、城内でも特に政治中枢・城主、一族の屋敷地として機能したと考えられる。隣接するC地区とは、上端幅約40 m を測る城内最大の堀切りで分離する。

C地区は、現在、ほぼ全域がみかん畑になっている。主に６つの曲輪群から構成される。すべて大型の曲輪で、A地区とは対照的なプランを示す。防御より居住に比重を置いた構造で、上級家臣の屋敷地として機能したと考えられる。隣接するD地区とは、峠道になっている堀切りCで分離する。

D地区は地域北端に突出したところで、現在、穆園広場が一部につくられている。１つの曲輪から構成される。曲輪北直下を堀切りDで守り、堀はそのまま東側へ横堀となって伸びている。近年の削土で横堀端部の状況が確認できないのは残念である。単郭だが強い防御性を備えており、尾根続きの北に対して、要害機能を発揮したと考えられる。

このように穆佐城は城域の両端に防御主体のA・D、中央に政治・居住主体のB・Cの曲輪群を配置した城郭であった。壮大な城郭遺構がほぼ完存し、また一連の曲輪群の機能分化が明瞭に復元できることから、宮崎県内の中世城館でも、きわめて貴重なものである。全城域を視野に入れた、保護・調査活動が、早急な史跡指定と共に、行われることが望まれる。



第２図　穆佐城址縄張り図（千田嘉博氏作図）

高岡町遺跡詳細分布調査報告書

平成4年3月

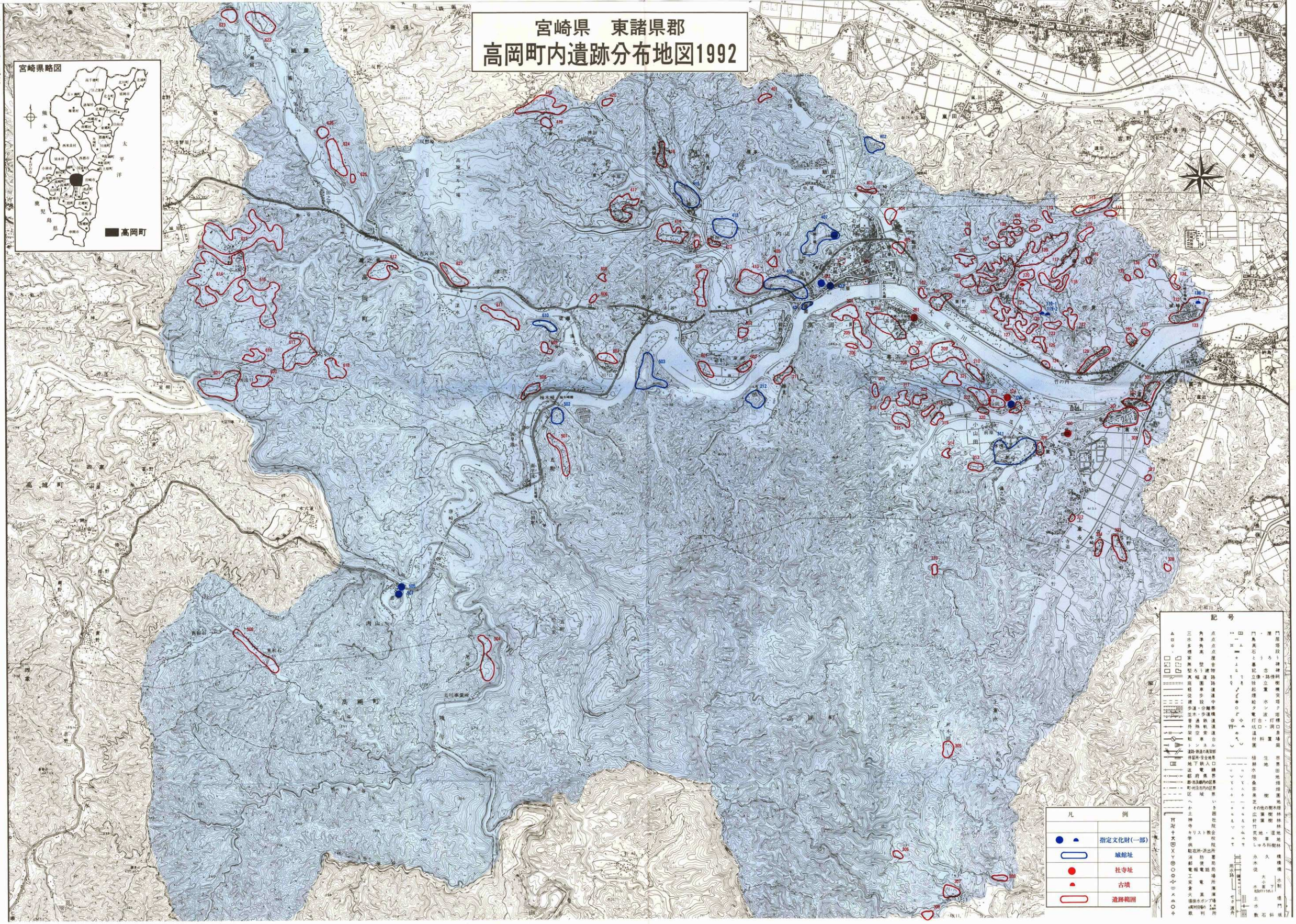
編集・発行

宮崎県高岡町教育委員会
宮崎県東諸県郡高岡町大字内山

印刷　秀巧社印刷株式会社

平成四年三月現在

宮崎県　東諸県郡
高岡町内遺跡分布地図1992



宮崎県東諸県郡高岡町役場